



多くの出席者と共に町の130年を祝った

9月12日、北海道長沼町130年記念式典に小沢昌記市長と佐藤孝孝市議会議長が参列しました。長沼町の歴史は、水沢区出身の吉川鉄之助が開拓の跡をおろした明治20年に始まり、昭和48年に旧水沢市との姉妹都市を締結しています。

式典には高橋はるみ北海道知事をはじめ町内外から200余名が出席し、その中には吉川氏の孫、吉川鐵男氏の姿も。小沢市長は「町のさらなる発展と、姉妹都市の絆がより深まることを願う」とお互いの未来を見据えた祝辞を送りました。

「姉妹都市の開基130年を祝う」



開発に成功した商品の説明に聞き入る参加者

市は9月5日、6次産業化セミナーを開催しました。6次産業化に興味がある人が次のステップへ進むための後押しと取り組む人のネットワークづくりが目的です。

セミナーには商品開発に取り組んでいる農業者や事業者など11人が参加。岩手支援（株）の鈴木勝美社長を講師に迎え、「これからの6次産業化」と題した講演では、6次産業化の展開方法や事業を成功させるための要点などを学びました。参加者たちは商品開発などの事例発表や意見交換も行い、交流も深めました。

「6次産業化の必要性と可能性を学ぶ」



南都田地区センターでは、給水車による住民への給水も実施した

市は総合防災訓練を9月3日、防災関係機関相互の協力体制を確立するため、市役所や11の地区センターなどで実施しました。訓練は、大型台風の影響に伴う大雨による浸水・土砂災害と大雨による避難開始後に地震が発生したという複合災害を想定。

市職員による災害対策本部の設置運営訓練のほか、地区センターや地域の集会所などでは、災害対策本部から緊急告知ラジオを通して発令された避難情報や合図に、市民約千人が参加する避難誘導訓練などを実施しました。

「災害対応力を高め、有事に備える」



2役を演じた自作の朗読劇で、会場に感動を呼んだ

市は「心といのちの大切さを考える講演会」を9月17日、江刺体育文化会館ささらホールで開催しました。一人一人が自ら命を絶つことのないよう、大切な命をみんなで守れる社会の実現を目指すことを目的としています。

「心のストレッチ」をテーマに講演した声優の佐久間レイさんは「心のゆがみは性格の原因ではなく、人が育ち暮らす生活から生じるもの。それを支える人との出会いと環境が大切」と自身の家庭や仕事での経験を交え、社会へのメッセージを伝えました。

「柔らかな心と体で明日を生きる」

みずさわ まちに起こせビッグバン！ 奥州ビッグバンフェスタ

奥州ビッグバンフェスタ（水沢青年会議所など主催）が9月2日、水沢駅通りで行われました。ステージイベントのほか、「防災フェスタ」「肉バンフェスタ」など地域を意識した催しで盛り上がりました。

駅通りをすごろく盤に見立てた「THE！奥州まちなかすごろく～まちの魅力再発見～」には、子どもたちが多数参加。友達と参加した羽田小学校6年の及川恵歩さんは「クイズに答えたりしてミッションをクリアするのが楽しかった」とまちなか探索を満喫していました。



会場全体が手造り感あふれる雰囲気気で気持ちを和ませます



全身を使って振ったさいころ。どんな目がでたかな？

えさし ものづくりと人の輪つなぐ わっか市2017

ものづくりをしている若い人たちが集まり、お客さんとの輪、出店者同士の輪をつくるきっかけづくりの場「わっか市」（NPO法人夢追座主催）が9月10日、市勤労青少年ホーム江刺サテライトで行われました。

4回目となった今回は、新規14店舗を含む35店が出店。わっか市が初めての出店となった『りーぷりんぐ（細川さおり代表）』は「知り合いから声掛けがあって出店してみた。会場が大きすぎず雰囲気も良く、初めてでも安心」と接客する笑顔に喜びが表れていました。

いさわ 花が咲きそろう日を心待ち ひめかゆ周辺花いっぱい大作戦パートⅣ

『ひめかえ 花が咲きそろう日を心待ち』ひめかゆ周辺花いっぱい大作戦パートⅣ（ひめかゆ協力会主催）が9月10日、胆沢区若柳のフラワーガーデンで行われました。一般ボランティア13人と会員企業から23人が参加し、アジサイとアヤメを植栽しました。

市民提案型協働支援事業補助金を活用し、ことしで4年目の開催。始めた頃より見違えるほど花が増えてきた園内の様子に、参加者はもうひと踏ん張り丁寧な作業しました。



パワーショベルで掘られた穴にアジサイの株を植える参加者たち



ことしで結成20年を迎える地元水沢区の「幻夢伝」。気持ちのこもる演舞が観客を魅了した

みずさわ 踊りにホレたぜ！感動共有 奥州YOSAKOI in みずさわ

奥州YOSAKOI in みずさわ（同実行委員会主催）が9月17日、水沢区の水沢駅通りなどを会場に行われました。16回目となる今回は、54チーム約1,500人が参加。北は北海道、南は愛知県から水沢に集結した踊り手たちが、華麗な演舞を披露しました。

踊りが終わるたびに観客は「熱いぜ！」「ホレたぜ！」と書かれた「感動投票シール」を気に入った踊り手に貼り付けて感動を表現。各チームの華やかな衣装には、真赤なシールの花が咲き乱れました。